

「家づくりは命に係わる仕事！」最近このような話を聞きますか？

地震が頻発する日本、大地震の後の様々な調査により、地震による災害は天災ではなく人災と言う話しを耳にするようになりました。また住宅と健康について様々な研究結果が報告されております。ポイントは建物の断熱性能と言われ、この性能の違いによって起こる健康阻害要因が報告されるようになりました。

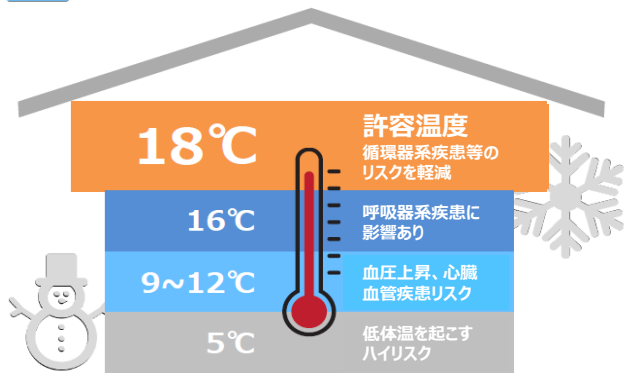
『暑さ・寒さによる健康阻害』、『地震による災害』は「建築士次第」

建物の断熱性能と健康との関係調査

ヒートショックは有名ですが、例えばこんな調査が行われています

- 断熱住宅普及率と冬季死亡増加率
- 起床時・就寝前の血圧に対する室温の影響
- 室温変化と頻尿指標の関連性
- 朝の居間が低温である居住者の特性分析
- 改修前後の血圧比較（起床時・就寝前）
- 血中脂質の比較（温暖/寒冷住宅群別）
- 就床時近傍室温と睡眠障害
- 血中脂質・心電図異常と室温の関連

健康リスクを低減する室内温度は18℃



出典: 英国保健省イングランド公衆衛生庁「イングランドの寒計画 (Cold Weather Plan for England)2015.10」

イギリスでは、寒さによる健康リスクがまとめられており、住宅の最低室温に関する基準があります。

出典：住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査 第3回中間報告/一般社団法人日本サステナブル建築協会

改正省エネ法の「省エネ基準適否説明の義務化」で、ますます断熱性能に注目が集まると考えられます

熊本地震における「建築時期・耐震性能の違いによる損傷状況」

■熊本地震における木造住宅の建築時期別の損傷比率（建築学会によって実施された益城町中心部における悉皆調査より）

損傷ランク	V(破壊) 倒壊	IV(大破) 全壊	III(中破) 大規模半壊	II(小破) 半壊	I(軽微) 一部損壊	無被害
旧耐震基準 ~1981年6月	214棟 (28.2%)	133棟 (17.5%)		373棟 (49.1%)		39棟 (5.1%)
1981年6月 2000年5月	76棟 (8.7%)	85棟 (9.7%)		537棟 (61.2%)		179棟 (20.4%)
2000年6月 ~	7棟 (2.2%) ²⁾	12棟 (3.8%)		104棟 (32.6%)		196棟 (61.4%)
新耐震基準 3	0棟 (0%)	0棟 (0%)	0棟 (0%)	2棟 (12.5%)		14棟 (87.5%)
損傷イメージ						

高い車も安い車も、お客様の意思に関わらず、メーカーは標準装備でエアバックをつけています。

耐震等級3も、お施主様の判断ではなく、ビルダー様が決める事！標準装備と言う考えが広まっているようです。

耐震等級3の構造計算はLIXILにお任せ、サポート開始10周年！年間3500棟以上の実績

面倒な耐震等級3計算、省エネ計算やBELS評価書の取得は LIXILへお任せ下さい

LIXILの「耐震設計サポート」「ZEH設計サポート！」